



本出祐之教授

本出祐之教授記念号によせて

社会学部長 武 田 建

昭和45年10月以来、当社会学部の教授として教鞭を取ってこられた本出祐之先生が、この3月末日で定年退職なさいます。

先生は天王寺中学から早稲田大学文学部英文科に進まれ、英文学を専攻なさいましたが、在学中から長谷川誠成先生、さらには大槻憲二先生について精神分析学を学ばれました。このことが、後に本出先生のご関心を社会福祉、とりわけ臨床ケースワークに向ける伏線になったと考えられます。

卒業と同時に兵役、内外地で多くの御苦勞をなさいました。終戦後明石あるいは大阪で高校生の教育にたずさわられましたが、昭和28年我が国社会福祉の重鎮岡村重夫先生のお招きで、大阪市立大学家政学部専任講師として、長い間社会福祉方法論、とりわけケースワークと臨床実習の指導にあたられました。

昭和41年より4年間、先生は愛知県立大学教授として名古屋に赴かれ、同時に愛知県立女子大学および短期大学の教授をも兼任なさいました。この間、同大学評議会評議員、同大学文学部長を歴任なされ、大学紛争のなかで多くの困難なお仕事に従事されました。

昭和45年、当社会学部にご着任以来、ケースワークのみならず社会福祉原論をも担当され極めて幅広く教育と研究をすすめられました。ご定年前の数年間、先生は英国の社会福祉制度とその実践に深く関心をもたれ、一年間のご留学の後も度々英国にゆかれ、ぼう大な資料を持ちかえり、その整理と研究に明け暮れておられました。

昭和53年に、社会学研究科社会福祉専攻の後期課程が文部省から認可されました。この準備のために、先生が度々上京し、文部省をはじめ関係諸機関との接触に当たって下さったことを心から感謝する次第です。

先生のご活躍はただ単に学内のみにとどまらず、大阪府あるいは兵庫県において、社会事業研究会、ソーシャルワーカー協会、社会福祉研究会などを設立、社会福祉の第一線で働く実践家のレベルの向上に非常に大きな働きをして下さいました。また、全国の社会福祉専攻を持つ大学の組織である、日本社会事業学校連盟の会長としての責任を昭和54年より56年まで果たして下さいたことを忘れることができません。

こうした多くのお働きをして下さった先生とお別れすることは誠に悲しいことですが、幸いご定年退職後も、先生は引き続き大学院の講義をご担当していただくことになっています。今後も先生の元気な顔を拝見できることは私たち一同の喜びとするところです。先生がご健康に恵まれ、いつまでもご活躍なさることをお祈りいたします。